

平成23年10月26日

施設分離型小中一貫校
品川区立浜川小学校
校長 矢田 雅久

規律正しい児童は学力も大きく向上する

「マナーキッズ」を「市民科授業」に取り入れて

本校では、平成22年度より、『「当たり前なことを当たり前にする」まずは教師から、そして児童も』…というキャッチフレーズを掲げ、児童の規範意識の定着と学力向上に取り組んでいます。

学力向上の手立てとしては、表1のことに取り組んでいます。

表1 学力向上の手立てとして取り組んだ事

9年間を見据えた学習規律、生活規律、各教科の年間指導計画の作成と徹底
朝、昼の15分間の帯の時間工夫（児童の実態に即した学校としてのカリキュラム作り）
パワーアップタイム（補修学習の時間）の工夫（習熟度別学習）
習熟度学習の工夫や教科担任制の導入
若い教師が多いので授業力向上のための工夫（授業観察システムの導入、校内教師塾の設置、授業の工夫〈板書、ノート指導、授業展開のパターン化と定着〉）

特に、学習規律、生活規律においては、一貫校である浜川中学校と義務教育の9年間を通じた指導計画を作成し、児童・生徒に定着させるように全教師が一丸となって取り組んでいます。

生活規律の一つとして、あいさつ奨励し、全児童を対象にしたあいさつ当番やあいさつ名人の選出、各学年の発達段階に合った朝の時間でのあいさつ指導の徹底にも取り組んで参りました。その結果、保護者や外部評価でのアンケートでも、「大きな声で適切なあいさつをすることができる。」という項目の数値が大きく上がってきています。

学力向上の基盤として取り組んでいる学習・生活規律づくりですが、本校で実施しているCRT（学力定着度調査）では、平成21年度と平成22年度のものを比較すると、平成21年度に実施していない1年生を除いた全学年で大きく向上しています。

また、中学年以上の児童を対象に実施したアンケート調査の結果を分析したところ、学習規律や生活規律が定着していたり意識していたりしている児童は、そうでない児童よりも学力が向上していることが分かりました。

本校では市民科学習の時間としてマナーキッズ・プログラムを平成21年から実施しており今年度で3回目となりました。主に2・3・4年生の児童を対象にあいさつやマナーの大切さを子どもたちに価値付ける体験学習として位置付けて実施しております。

マナーキッズは、年に一回です。この一回だけでマナーを身に付けることはできません。しかし、この一回の学習が子どもたちにとって、相手に対する思いやりやお礼の心、あいさつを日常生活で実践していく強い動機付けとなっています。

本校では、全校朝会や児童集会はもちろん、授業の最初と最後のあいさつでも、言葉を言ってから頭を下げてあいさつするという、マナーキッズで学んだ礼法を様々な場面で実践し定着を図っています。

今後も、このマナーキッズの学習を活用し、教職員と児童、保護者が力を合わせ、生活規律や学習規律を徹底させ、学力の向上に向かって前進していきたいと考えています。